

市政ニュース

友好親善都市の韓国慶州市訪問団と姉妹都市のニュージールランドルアペフ地区訪問団を受け入れ

【慶州市訪問団】



▲東川初等学校児童をお見送り

1月16日から18日までの3日間、友好親善都市の韓国慶州市から、東川初等学校の児童ら28人が来訪しました。

17日、児童らは、日高小学校を訪問し、こまやけん玉などの伝統遊びや書道を通して交流しました。当日は、阪神・淡路大震災が起きた日にあたり、災害時の炊き出しを再現した給食を味わいました。

また、ホームステイをし、家庭生活を体験しました。

【ルアペフ地区訪問団】

1月19日から23日までの5日間、姉妹都市のニュージールランドルアペフ地区から、タ



▲杞柳細工を体験

ウマルヌイ高校生ら12人が来訪しました。

滞在中の宿泊は全てホームステイで、ホストファミリーとさまざまな体験をしました。

日高東中学校では、ニュージールランド国歌を演奏して歓迎。同団は「ハカ(ニュージールランドの民族舞踊)」を披露しました。また、地理や調理実習などの授業を受けました。

日高西中学校での歓迎会は、生徒が企画、通訳まで行いました。その後、同団は和楽器、書道などの授業に参加し、同校生と一緒に日本文化を楽しみました。

観光PRコーナーも設置

豊岡市特産品フェアを開催

1月16日と17日の2日間、豊岡市特産品フェアを三井住友銀行本店ビル(東京都千代田区)で開催しました。

これは、本市に支店を置く三井住友銀行が、東京での「豊岡」の知名度アップにつなげようと、本市に呼び掛けて実現したものです。同銀行本店ビルでの市町村の特産品フェアは初めての事です。



▲豊岡市特産品フェア会場の様子

会期中は、同銀行社員約800人が、コウノトリ育むお米や酒、ちくわパンなど、多くの特産品を購入しました。

出石藩出身・川崎尚之助を学ぶ!

講演会を開催

NHK大河ドラマ「八重の桜」に、出石藩出身の川崎尚之助が登場しています。

尚之助への市民の理解を深めるため、1月26日に川崎尚之助を学ぶ講演会を開催しました。

講師には、昨年12月に出版された「川崎尚之助と八重」の著者の歴史研究家・あさくらゆうさんを迎え、「一途に生きた男の生涯 川崎尚之助」と題して講演していただきました。



▲講演会場は満席

予定の100人を大きく上回る約200人の来場者が熱心に聴講していました。

主な市政の動き

1月

15日・17日 追悼関連行事を市内幼稚園、認定こども園、小・中学校で実施(18日、23~25日)

16日・友好親善都市交流・韓国慶州市訪問団来訪(18日)

豊岡市特産品フェア(17日・東京都)

19日・姉妹都市交流・ニュージールランドルアペフ地区訪問団来訪(23日)

20日・豊岡市少年野球教室(NOMOベースボールクラブが指導)開催

22日・第68回国民体育大会アイスホッケー競技会豊岡市出身選手激励会

25日・宇宙教育「出前授業」

26日・まちぐるみ学校支援シンポジウム

30日・冬山遭難救助訓練

【2月】

5日・イナカー運行計画見直しに係る市民説明会(8日、13・15・20日)

8日・第68回国民体育大会スキー競技会豊岡市出身選手激励会

コウノトリ子育て支援メッセージ 夢へのチャレンジ!!

豊岡市少年野球教室開催

1月20日、豊岡市少年野球教室を県立但馬ドーム(日高町名色)で開催しました。

当日は、市内の少年野球チームに所属する259人が集まりました。子どもたちは、但馬ドームに響き渡る大きな声を出して元気いっぱい受講しました。

今回の教室は、本拠地を豊岡市に移転した社会人野球チーム「NOMOベースボール

クラブ」の選手・スタッフを講師に迎えて実施。元メジャーリーガーで同クラブ理事長の野茂英雄さんからも直接指導を受けました。

一つ一つの動きの意味や効果の説明を聞きながら、ウォーミングアップを入念に行いました。その後、キャッチボールやポジション別の守備練習をしました。

選手の迫力のあるヘッドス



▲ピッチングの指導をする野茂理事長(中央)と清水監督(右)

第68回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会、スキー競技会に出場する豊岡市出身選手の激励会を開催



▲(後列左から)渡邊トレーナー、貝嶋コーチ、米田・嶋・高橋・山本選手(前列左から)新田・梶高選手、中貝市長、大嶋・岡田選手

1月22日、「第68回国民体育大会冬季大会アイスホッケー

競技会(少年男子の部)に兵庫県代表として出場する本市出身の選手8人とコーチ、トレーナーの計10人が中貝市長を訪れ、激励を受けました。

8選手は県立円山川公苑(小島)を拠点に活動するアイスホッケークラブ「但馬ホワイトベアーズ」に所属し、活動しています。

また、2月8日には、同大会スキー競技会に兵庫県選手団員として出場する本市出身選



▲(左から)中貝市長、井上・坂口・田中選手、岡森監督

手7人のうち3人と監督が来庁し、井上正治神鍋観光協会長と中貝市長が激励しました。

中貝市長の徒然日記 64

頑張れ、コウノトリ育むお米

コウノトリ育むお米が好調です。最大のお得意様であるイトーヨーカ堂での販売数量は、平成22年産米は110トンでしたが、平成23年産米は201トンに増えました。そのうち関東圏は180トンで、圧倒的に関東で売れています。

昨年7月、JAが扱う平成23年産のコウノトリ育むお米は各地で売り切れ、店頭から姿を消しました。「うれしい悲鳴」と言いたいところですが、実は困った事態でした。

まず、コウノトリ育むお米の味を気に入る、あるいはコウノトリの取組みに共感し、応援しようと購入いただいたいる消費者の期待を裏切りません。販売店の多くも、味と取組みへの共感が販売の原動力になっています。その期待を裏切ることになりません。

お店では、やむを得ず、売り場に他の米を置きます。客は、一度他の米に移ると容易には戻ってきません。これまでも、その容易には変わらない

消費者に訴え、他の米からコウノトリ育むお米へと変えていただいていたのです。

コウノトリ育むお米は沖縄最大の流通グループ・サンエーでも売り切れましたが、売り場を空けたまま「コウノトリ育むお米は売り切れです。新米入荷までお待ちください」と張り紙を出す異例の扱いをしていただいたそうです。

この米は、多くの方々からえられた幸せな米と言えます。先日、市から中央省庁や商社に派遣している若手職員と東京で懇談した際、商社にいる職員が「市長、商談がまとまりました」とうれしそうに話してくれました。ある高級スーパーのバイヤーに「食らいつき、じゃあ、7分だけ時間をあげる」と商談会で話を聞いていただいたそうです。JAと連携して納品に向けた調整が始まったとか。褒めたたえ、焼きガニの取り分を1本多くしてやりました。

さらに生産を増やし、消費を増やしていきたいと切に願っています。コウノトリ育むお米、頑張れ!